

高齢者を誰一人取り残さない居場所とは

静岡福祉大学社会福祉学部檜木ゼミ

指導教員：教授 檜木博之

参加学生：金成真治、佐藤柚葉

鈴木愛梨、渡邊紅

1 要約

高齢者が居場所に参加しない要因として、「心理的要因」「身体的要因」「社会的要因」等であった。一方で、「居場所に参加していない人の把握ができていない」ことも明らかになった。居場所に参加していない人をどのように把握していくかが今後の課題である。

2 研究目的

令和4年度ゼミ学生等地域貢献推進事業で行った研究において、以下の点が課題となった。先行研究や伊豆の国市・他市の現地調査において共通した課題として、居場所に参加する人は限定されていて、本当に必要な孤立している人が参加していないことである。この課題に対して、参加していない人の要因を明らかにしていく必要がある。また居場所といっても内容はそれぞれ違いがあり、市民がそれを選択することができるような居場所マップの作成も必要になる。

本研究は、伊豆の国市内で居場所に参加していない人の要因を明らかにし、伊豆の国市の高齢者の居場所づくりに対する施策についての提言を行うことを目的とする。

3 研究の内容

(1) 当初の計画

以下の方法で研究を行う。

- ①高齢者が居場所に参加しない要因に関する先行研究をまとめる。
- ②高齢者の居場所の先進事例をまとめる。
- ③伊豆の国市の高齢者の居場所に参加しない要因について地域包括支援センター及び民生委員へのヒヤリングを行う。
- ④他市町で世代を超えた居場所の取り組みを行っている所を視察する。
- ⑤伊豆の国市他で誰もが参加しやすい居場所を行う。
- ⑥①～⑤の結果を報告し、伊豆の国市長寿福祉課と意見交換を行う。
- ⑦高齢者の居場所づくりに対する施策について報告書としてまとめ、提言する。

(2) 実際の内容

以下の方法で研究を行った。

- ①高齢者が居場所に参加しない要因に関する先行研究をまとめる。
- ②伊豆の国市の高齢者の居場所に参加しない要因について、菰山地区・長岡地区・大仁地区の地域包括支援センター及び民生委員へのヒヤリングを行った。
- ③他市町で世代を超えた居場所の取り組みを行っている所を視察した。
- ④伊豆の国市他で誰もが参加しやすい居場所を行った。
- ⑤①～④の結果を報告し、伊豆の国市長寿福祉課と意見交換を行う。
- ⑥高齢者の居場所づくりに対する施策について報告書としてまとめ、提言する。

4 研究の成果

(1) 高齢者が居場所に参加しない要因に関する先行研究

高齢者が居場所に参加しない要因の先行研究として、迫山ら（2016）が、「病気や介護状態により、ふれあい交流事業に参加をする事が出来ない」「60歳代が老人会参加に抵抗を持つ人がいる為に若い世代が参加しづらいと感じている」¹⁾としている。また、補足として「男性高齢者のふれあい交流事業の不参加の多さ」や「行政区に加入していない」¹⁾ことも参加しづらい理由としていた。白瀬ら（2015）は「参加者の大半が女性の為、男性の単身高齢者があまり来ていない」²⁾としている。男性が居場所に参加するために、知識を得たり、生産活動を行ったりという明確な目的意識を持った活動が男性に好まれる」ことがあるので、「男性のニーズに応える居場所づくりも検討する必要がある」²⁾と挙げられていた。齋藤（2020）は過疎地域の居場所において、高齢者が参加していくために「住民が主体的に居場所に参加できる要因を生み出す

とともに行政と住民が伴走的なつながりをもつことが重要」³⁾としている。

(2) 伊豆の国市地域包括支援センターへのインタビュー調査

伊豆の国市の高齢者の居場所に参加しない要因について明らかにするために、伊豆の国市内の地域包括支援センター3箇所の職員にインタビュー調査を行った。調査は2023年9月22日～23日に実施した。構造化面接で実施し、インタビューガイドは以下のとおりである。

- ・居場所に参加している人の共通点があるか。
- ・居場所に参加している人がどのような声を聞いているか。
- ・居場所に参加していない人の要因は何か。
- ・居場所に来られない人の把握をどうやって行っているか。等

調査後、文字起こしを行い、カテゴリ、サブカテゴリに分類して分析を行った。カテゴリとして「参加する要因」「居場所の周知方法」「居場所の課題」「参加しない要因」とした。「参加する要因」と「参加しない要因」のサブカテゴリと具体的意見を紹介する。

居場所に参加する要因のサブカテゴリとして「心理的要因」「社会的要因」「男性の参加要因」の3つに分類した。具体的意見は表1のとおりである。

表1 居場所の参加する要因（地域包括支援センター）

サブカテゴリ	具体的意見
心理的要因	「楽しそうにしているイメージがある」 「話し相手とか他者との交流を希望している方が多い」 「ここに来ることで安心感が得ている」
社会的要因	「あなたも来なよ、いうことで誘っていただいて参加する方が多い」 「体操教室では、誰かと関わりたいと思っている方、健康に気を使っている方が参加している」 「サロンでは、地域の中で活動的な方々や、デイサービスに行っていない方が参加している」
男性の参加要因	「男性に役割があると参加してくれる」 「ドライブカフェだと、男性が多い。参加する目的がしっかりあるから」 「活動内容で医療・防災・警察・消防のことだと男性の参加率は高まる」

居場所に参加しない要因のサブカテゴリとして、「交通手段の問題」「身体的要因」「心理的要因」「社会的要因」の4つに分類した。具体的意見は表2のとおりである。

表2 居場所に参加しない要因（地域包括支援センター）

サブカテゴリ	具体的意見
交通手段の問題	「場所に行く交通手段がないのでいけない」 「近くに住んでいる人はすぐに行けるけど、遠くに住んでいる人は誰かが送ってくれないとそこまでいくことができない」
身体的要因	「公民館まで結構距離がある人は、サロンとか体操教室まで行くのが大変」 「行きたいけど行けない」
心理的要因	「相談することへの抵抗感がある」 「人の中へ入るといふことに対する抵抗感がある人が割と多かい」 「私にはまだこのような活動はいらぬ、という人がいる」 「引きこもりまではいぬが、他者との関係を割と絶っている方が多い」
社会的要因	「居場所を知らない」 「他のことで忙しい」 「病院受診で、毎日いろいろな科にまたがって受診してて、それだけで忙しく行ってる暇がない方もいる」

(3) 民生委員へのインタビュー調査

地域包括支援センターと同様の調査方法で、伊豆の国市内の民生委員3名にインタビュー調査を行った。文字起こししたデータを分析し、カテゴリとして「参加する要因」「居場所の開催方法」「居場所の課題」「参加しない要因」とした。「参加する要因」と「参加しない要因」のサブカテゴリと具体的意見を紹介する。

居場所に参加する要因のサブカテゴリとして「交通の便」「身体的要因」「心理的要因」「参加する利点」の4つに分類した。具体的意見は表3のとおりである。

表3 居場所に参加する要因（民生委員）

サブカテゴリ	具体的意見
交通の便	「歩いて行くことができる」 「送迎サービスがある」
身体的要因	「身体を動かす動機が欲しい」 「元気になる」
心理的要因	「皆と交流できる」 「自分の再発見に繋がる」 「生活に潤いが出る」
参加する利点	「道で会った時に「こんにちは」の挨拶だけではなく、その時のことが話せる」 「日常の中で悲観的になってしまうことも共有でき、1人でないと思える」 「自分の役割がある事に気づいて社会との接点ができた」

居場所に参加しない要因のサブカテゴリとして、「交通手段の問題」「身体的要因」「心理的要因」「社会的要因」の4つに分類した。具体的意見は表4のとおりである。

表4 居場所に参加しない要因（民生委員）

サブカテゴリ	具体的意見
交通手段の問題	「交通手段がない」 「車の送迎をしてくれる人がいない」 「歩いて通えない」
身体的理由	「足腰が強くない」 「家でも押し車や杖を使用している」 「体調面に理由がある」 「耳が悪い」 「トイレが近い」 「咳が止まらなくなる」
心理的理由	「人と関わるのが苦手」 「認知症になったことを知られたくない」 「周りに迷惑をかけることをしたくない」 「男性に多いが、過去に執着している」
社会的要因	「行きたいけど行けない」 「参加費がかかるか心配」

(4) 居場所の課題

地域包括支援センターと民生委員のインタビュー調査で出された居場所の課題をまとめた。サブカテゴリとして「居場所の周知」「居場所としての役割強化」「参加していない人へのアプローチ」の3つに分類した。具体的意見は表5のとおりである。

表5 居場所の課題（地域包括支援センター・民生委員）

サブカテゴリ	具体的意見
居場所の周知	「何かあったらどこに行けばいいかが分かるように繋ぐ必要がある」 「自分が参加をして楽しかったとか、自分の問題が解決したということがない限りは口コミが回らなくなる」
居場所としての役割強化	「地域で支える価値観、行動パターンにならないといけないのが本当の課題」 「スタッフには、傾聴して共感能力が求められる為、主催する側も学ばないといけない」
参加していない人へのアプローチ	「男性に、地域の中でリーダーをやってもらうことが理想。そしたらより密着、居場所が濃くなる」 「参加していない高齢者をいかに来てもらうかが本当の課題」

(5) 居場所への参加・実施

9月5日（火）に焼津市内の高齢者サロンに参加、10月9日（月）には伊豆の国市にて地域の居場所を企画、実施した。伊豆の国市の居場所は、くっちゃべり処「よろずや」を会場として、駄菓子屋とハーバリウム体験を行った。当日はあいにくの雨模様だったが、地域住民が買い物帰り

等にふらっと立ち寄る人もいて、子どもから高齢者まで参加する居場所となった。

居場所への参加・企画と実施を行って気づいたことは以下のとおりである。

- ・人と人のつながりを感じることができ、居場所をただ開催すれば人が集まるのではなく、地域住民同士の交友関係があるからこそであると実感することができた。
- ・居場所を周知するには、立地や天候などの環境が影響したり、民生委員の密なコミュニケーションが必要になったり、その人の人柄も影響してくると感じた。
- ・駄菓子販売も行ったが、住民同士でコミュニケーションをとる機会となり、昔を思い出しながら楽しい時間となったのではないかな。

写真① 居場所のチラシ



写真② 居場所の様子



5 課題提出者・地域への提言

居場所に参加しない要因として、「居場所には行きたいが、周りの視線が気になるなどの心理的要因」「身体を気にして参加しない人が一定数いる身体的要因」「居場所についての理解がないで参加していななどの社会的要因」等が明らかになった。居場所の課題として、居場所の意義等の理解を広げていく「居場所の周知」、居場所としての役割を果たしていくための「居場所の強化」、「参加していない人へのアプローチ方法」等が挙げられた。インタビューの中で共通していたこととして、「居場所に参加していない人の実態を把握ができていない」ことであった。高齢者が自身で居場所を持っていて参加していないことも考えられるため、地域への提言として、居場所の実態を明らかにしていくことである。

6 「課題提出者・地域からの評価」について

伊豆の国市健康福祉部長寿介護課 課長 赤畑浩志

4つのカテゴリに分類整理していただいたことで、居場所に参加していない人の要因がより明確になりました。要因から見えた課題についても、具体的に示されていました。

単身高齢者や高齢者のみの世帯の増加、地域コミュニティの希薄化が、高齢者の孤立状態をもたらすことに繋がることから「居場所」の役割は重要です。伊豆の国市の全高齢者のうち、居場所に参加している高齢者の割合がわずかであることは明らかですが、行政のみの力で居場所に参加しない人について調査研究を行い、結果を反映した居場所づくりを進めることは困難な局面を迎えております。そのような状況の中で、実際に地域に出向き、調査研究を行い、市外の若い人達の目線からご提言をいただけたことは大変意義深いことと感じております。

今回いただいた提言を参考に、なお残る課題「居場所に参加していない人の実態を把握ができていない」への取り組みも含め、誰もが参加できる居場所づくりを推進してまいりたいと考えております。

文献

- 1) 迫山博美 尾形由起子 山下清香 小野順子 手島聖子 檜橋明子 中村美穂子 (2016) 「『地域における高齢者に対する介護予防活動の現状と課題』—A町のふれあい交流活動の分析を通して—」
- 2) 白瀬由美香 大塚理加 大津唯 泉田信行 (2015) 「『高齢者の居場所作り事業に関する検討』—網走市高齢者ふれあいの家をもとに—」
- 3) 齋藤建児「過疎地域における社会的居場所の円滑な運営方針の検討—地域包括支援センター職員へのインタビュー調査から—」 (2020) 高齢者のケアと行動科学第25巻